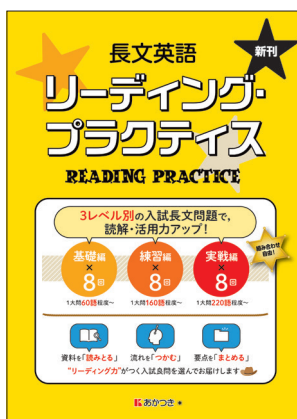


英語長文に「慣れる」

教材活用シリーズ 第133回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

(株)廣濟堂あかつき  
『長文英語  
リーディング・プラクティス』



廣濟堂あかつき(株)  
第1編集部 英語科

1. はじめに

長文が出てきたらとりあえず後回しにしてしまおう、時間が足りなくて途中で諦めてしまおう、そんな生徒がほとんどなのではないでしょうか。

毎年入試問題で出題される上に、その配点も多く、年々、社会的に英語力が求められるようになってきていることで、読解力を問うものが多くなっている長文問題。

『長文英語 リーディング・プラクティス』は、少しでも長文問題に対する苦手意識をなく

してもらいたい、自信をつけてもらいたい、そんな思いで編集した教材です。  
今回は、教材の特徴をおさえながら、いくつかの活用方法をご紹介します。

2. 教材の特徴①「3レベル別」

まず、特徴は大きく三つあります。一つ目は、「3レベル別」です。やさしい問題で、読解の基礎と解き方がわかる「基礎編」、読解に慣れ、ムリなく力をつけられる「練習編」、入試本番を体感できる「実戦編」の三つのレベルをご用意

意しました。単語数も各レベルに合わせて調整しています。  
三つのレベルがありますので、生徒の実力や活用時期に合わせて選んだり、一つのレベルに限らず、複数のレベルを組み合わせて使用したりすることも可能です。

3. 教材の特徴②「テーマ別の出題」

二つ目は、「テーマ（出題形式）別の出題」です。本教材は、読解力と活用力アップに重点をおき、3レベル共通で、「資料」と英文から読みとる問題、「複数の英文を読む」の英文を組み合わせる問題、「本文のテーマを見つける」問題、「ストーリーの順番を考える問題」、「話題にに合わせて表現する問題」など、全8テーマ（8回）で分類しました。

回数	テーマ
1	資料のある英文を読みとる Part- I
2	資料のある英文を読みとる Part- II
3	資料のある英文を読みとる Part- III
4	複数の英文を読み合わせる Part- I
5	複数の英文を読み合わせる Part- II
6	英文のテーマを見つける
7	並べかえでストーリーを完成させる
8	話題に合わせて表現する

さまざまなテーマの問題から、資料を「読みとる」力、流れを「つかむ」力、要点を「まとめる」力をつけていけるようにしました。

#### 4. 教材の特徴③ 「入試本番の形式」

三つ目は、「入試本番の形式」です。ほとんどの都道府県の入試と同じ、A3判見開きの問題用紙にしました。また、入試問題と同じくらしい分量の長文、問題、解答欄がA3判見開きのなかにあり、解答・解説はその縮小版になっています。

入試本番の形式に慣れることができるだけでなく、使いやすいつくりにしました。

#### 5. おすすめの活用方法

ここからは、いくつか活用方法をご紹介します。

もちろん、生徒の実力に合わせて、「基礎編」「練習編」「実戦編」から一つのレベルを選んで使用していただいて大丈夫です。ですが、特にすすめる活用方法は、ただ、基礎編がひと通り終わったら練習編に取り組みむというように使い方ではなく、二つ以上のレベルを組み合わせて、テーマ毎に「基礎編」↓「練習編」↓「実践編」と併用する方法です。

特徴でも述べましたが、本教材は3レベル共通で、テーマ別に構成されています。また、レベル毎に単語数も調整されています。この方法でしたら、入試ではどのような問題が、どのような形式で出題されているのかを把握しながら、少しずつ入試本番に慣れていくことができます。

#### 6. とにかく長文読解が苦手な生徒には

解き方から学びたい生徒には、「基礎編」や「基礎編+練習編」をおすすめします。

基礎編にしかない特徴は、すべての回(テーマ)に「読みとりガイド」と「ヒント」があることです。「読みとりガイド」では本文の内容の把握をサポートし、「ヒント」では問題の解き方を提示しています。

練習編では「読みとりガイド」はありませんが、「ヒント」が4回までありますので、基礎編と練習編を組み合わせることで、少しずつ長文読解に慣れていくことができます。

入試と同形式の問題にも挑戦してみたいという生徒は、実践編も組み合わせてみたり、自

読みとりガイドで、本文内容の把握をサポート。(基礎編)

The screenshot shows a textbook page with a reading passage and a table. The passage is about a school schedule and a campsite. The table is a weekly schedule. Red boxes highlight specific parts of the text and the table. A red line connects the 'Read and Guide' text to the highlighted areas.

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
Math	Science	English	History	Art
PE	Music	Japanese	Foreign Language	Computer
Reading	Writing	Speaking	Listening	Thinking

各大問のヒントで、入試問題の解き方が分かります。(基礎編 練習編)

分の都道府県の過去問に取り組んでみたりするのもよいのではないのでしょうか。

#### 7. もっと自信をつけたい生徒には

自信をつけたい生徒には、「実践編」をおすすめします。

ただ最新の入試を使用しているわけではなく、近年求められている英語の力をみる入試問題を厳選していますので、読解力を身につけて、さらに自信をつけることができます。

または、「練習編」や「練習編+実践編」にしてみるのはいかがでしょうか。

先ほど述べましたとおり、練習編の4回までは「ヒント」が提示されています。「ヒント」はわからないときだけでなく、自分の解き方と照らし合わせるためのものとして使うこともできますので、いきなり実践編を選ばなくても、しっかり確認して自信をつけながら取り組むことができます。

今回ご紹介した活用方法はほんの一部で、他にもさまざまな組み合わせ方や活用方法があります。生徒の実力や実態に合ったものを選び、活用していただけたらと思います。

#### 8. おわりに

苦手意識をもたれがちな英語です。一つでも解ける問題が増え、少しでも興味や自信をもてるきっかけをつくれるよう、今後もよりよい教材の開発に努めて参りたいと思います。